

抄録

川端利明

思い起こせば、私が CAD/CAM 技工に興味を持ったのは、2003年ドイツのケルンで開催された IDS デンタルショーで、オールセラミックス製作システム(セルコンスマートシステム、デグサ社)のデビューを目の当たりにした時からです。

その時、同時にジルコニアという素材も初めて体感しました。「白い金属」というキャッチフレーズでした。それから21年間、様々な形で CAD/CAM 技工に携わってきました。

現在はワンマンラボですが、2台のスキャナー、2台のミリングマシンと2台の3D プリンターを使用し、全体の仕事量の90%以上を、CAD/CAM を中心としたデジタル技工で技工物を製作しています。鑄造は月に1~5回程度行くくらいです。

今、デジタルによって歯科技工、歯科技工士のあり方が大きく変化しています。この傾向はさらに加速的に進むのでは、とも感じています。

精度の高い補綴装置、長時間労働からの解放、作業環境の健全化、収益性の向上など、デジタルがもたらすその効果は計り知れないものと感じています。

しかし、小規模ラボなどにおいては、導入時に高額な資金が必要なため、間違ったシステムを選択してしまうと、前には進めず、後戻りも出来ない厳しい状況にもなりかねないため、失敗を恐れ「やらない理由」を並べてはいないでしょうか？

デジタル技工、特に CAD/CAM 技工を正しく知って頂き、新しい歯科技工の扉を開いて頂きたい。

そんな思いで今回は、CAD/CAM システムの正しい選択基準と導入時の資金面のこと、導入後の有効活用法、CAD デザインの具体的な方法、ミリングマシンの使いこなし方など、今すぐ臨床に役立つ情報を、レクチャーとデモでお話しいたします。

「この研修会がデジタル技工への関わり方を変えた」と思っていただけのような内容で、現在使用中の方も、まだ使ったことのない方にも、デジタル技工の面白さをお伝えできればと思っています。